

ぼくのたから物

小・3 別 府 旺 磨

ぼくの弟は、きよ年の七月九日に生まれました。生まれる前は、赤ちゃんなんてきつとうるさいし、言葉も分からないし、言うことも聞かないから、生まれてこなくてもいいと思っていました。でも、初めて赤ちゃんの真風を見たとき、思いました。かわいいな、この子はぼくが守ってあげたいなと。ぼくがそう思う理由の一つは、赤ちゃんは今までに見たことないくらいかわいかったです。ぼくがいそいで学校から帰ると、小さな小さな弟はすやすや気持ちよさそうにねていました。手をちよんとさわるとあたたかい手でぎゅつとにぎり返して、にっこりわらってくれました。ぼくはその時、あなんてしあわせなんだろうと思いました。赤ちゃんの中でも、ぼくの弟の真風は世界、いや、うちゅうで一番かわいいです。

もう一つの理由は、赤ちゃんは自分でいのちを守ることができないからです。生まれた赤ちゃんは、いやな時はなくけど、ごはんもトイレもおふろも何でもお世話をしなさいといけません。きけんを自分でさけることもできません。もう、ぼくは、こんなにかわいい弟がいない毎日なんて考えられません。弟がいない毎日がきたら、一生ないていると思います。だから、ぼくが守ってあげていきたいと思いました。

初めてだっこをしました。想ぞうしていたよりも軽く、とてもふしぎでした。お母さんが、

「真風は二六九グラムだよ。」

と教えてくれました。ぼくは、三千グラムをこえて生まれてきたそうなので、ぼくより軽いなと思いました。こんなに軽いのに、大切ないのちだと思いと、こわくて落とさないように気をつけてだっこをしないといけないなと思いました。

今年の七月九日は、真風が一さいになる日でした。一年をふり返ってみると、いろいろな思い出いっぱいです。ねているだけだったけど、ねがえりができるようになりました。今はもう、つかまって歩いたり、一人で立ったりもできます。せい長が早いです。言葉を話したり、ぼくの言うことも分かっているようです。がんばってしゃべりかけてくるのが、とてもかわいいです。ぼくは、赤ちゃんの伝えようとする力はすごいんだなと思いました。

真風はとても面白いです。たとえば、お母さんと遊んでいたと中でお母さんがごほんのじゅんびに行くと、一かんの終わりのような顔をします。かわいそうだけど、この顔が面白いです。ごほんのときマグカップをわたすと、だれもない方へカップを投げます。両がわに人がいると、まっすぐ遠くへポイツと投げます。本当は行ぎがわるくてだめだけど、にやりとわらってわるい顔で投げるのがかわいくて、家族みんなが笑顔になります。家族をえ顔にしてくれるみなもとが、弟の真風です。

ぼくは弟がかわいすぎて体が勝手に動いてしまいます。さわったり、だきしめたりしてしまいます。ぼくがさわるときに真風のきげんがわるくなると、いやそうな顔をしたり、ぼくのかみの毛をむしったりしてアピールします。でも、この様子がかわいすぎて、やめられません。それに、ぼくを見てにっこりしてくれたり、わらって

ぼくによってきてくれたりすることもあって、またやりすぎてしま
います。ぼくのたから物は、大すきな弟です。

毎日弟は成長していきます。これから真風が大きくなったとき、
発表会や運動会を見に行くのが今から楽しみです。今でも、あんな
にかわいいのに、おゆうぎ会やかっこをがんばっているすがたな
んで、キラッキラにかがやいているにちがいありません。ぼくの
切なたから物が、ぼくたち家族にしあわせとたのしみを運んでく
れました。 3・9